

農繁期 レポート

令和6年 8月号

バードライフファーム

オーナー バードライフ
産地 鳥取県日野郡日南町
水田面積 22.5アール
保証量 玄米1,013kg
形態品種 特別栽培コシヒカリ



生産者 ノータス研究所株式会社

8月に入り日中の気温はまだまだ厳しい今日この頃、山間地では朝晩はぐんと冷え込み寒暖差を感じて来ました。稲穂も順調に実りの秋に向けて育っています。日々の害虫・害獣の対策に草刈り、ドローンによる駆除剤の散布、電気柵の点検管理等を行っています。稲刈りまでもう少しなので、生産部社員一同オーナーの皆様美味しいお米をお届け出来るようしっかり管理してまいりますので、収穫を楽しみに今しばらくお待ち下さい。

8月の作業内容と稲の生長

1. 出穂 (しゅっすい)

茎の中で籾の集合体としてできた「穂」がさやを割って飛び出した状態を出穂と言います。最初は真っすぐピンと上に伸びています。その後すぐに花が咲き、受粉した籾がお米へと徐々に変化していきます。

2. 出穂後の稲-1

出穂後の晴天がお米を作ります。日中に葉で光合成が行われ、出来たブドウ糖が夜稲に送り込まれデンプン=米になります。山間部は昼夜の寒暖差が大きく夜の気温が低いのでデンプンが消費されず蓄積して美味しくなります。

3. 出穂後の稲-2

デンプンは最初ドロドロとしたミルク状の液体で徐々に固まっていきお米になります。固まると重たくなって穂が垂れ下がり、同時に籾の色も黄金色に変化します。よく言われているのは穂が出てから1000度が刈取り適期です。

4. カメムシ防除

穂が出揃う時にカメムシ防除を行います。畦付近の草から田んぼに侵入し、奥まで飛ぶことは少ないので周辺を重点的に対応します。カメムシを放置するとお米の品質や見栄えが悪く、商品にならなくなるので必須作業です。



出典:JAグループ

